

恵那市×ソフトバンク（CSR）

連携協定取組

2025年度 取組状況

1. 2025年度実施事項 ～ 教育分科会 ～

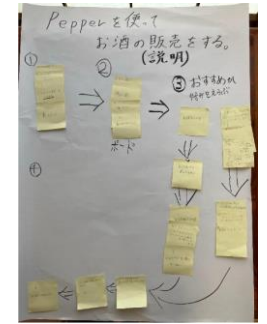
プログラミングによる社会課題解決の実施

①4月時点の状態と課題

- ①情報政策課からフィールドとして岩村醸造の紹介（打合せ実施済み）
- ②具体的な実施方法、実施時期は未定
- ③中心となる活動や担当部署は未定
- ④連携していく事業者も未定
- ⑤これまで中心になって準備を進めていた担当者が全員異動

②取り組みの経過

- 5月 実施方法、連携する事業者の検討
- 6月 実施時期・実施方法決定
- 7月 案内配布（校長会等で紹介）
講座1「課題把握と解決策の検討」※教育研究所
- 8月 講座2「プログラミング①」※サステナ
講座3「プログラミング②」※サステナ
講座4「岩村醸造での実践」※教育研究所
- 10月 アンケートの分析
- 11月 「研究所だより」にて紹介



参加費 無料

プログラミングで社会課題を解決

恵那STEAM教室2025

数ある社会課題の中でも、身近な課題として取り上げられる「酒」について、自分たちでアイデアを出し、プログラミングにより解決策を考えます。酒の製造から販売までの一連の流れを学び、それをプログラミングで再現し、実際に Pepper を使って「お酒の販売をする」を実現し、地域の人々から「何をしたらいいか」「何をしたらいいか」を学びます。

日程（全4日間）

- 1日目 7/29（水）会場：岩村エデュセンター
- 2日目 8/7（木）会場：恵那中央キャンパス（高・中）
- 3日目 8/14（金）会場：恵那中央キャンパス（高・中）
- 4日目 8/23（土）会場：岩村エデュセンター

※4日間の総額が13,000～16,300円（税込）です。参加費は無料です。お申し込みは必要です。

対象 中学生10人程度 ※先着順

申込方法 各日の2週間前までに申し込みをお願いします。

講師 講師はサステナ、市役所、岩村エデュセンター、岩村醸造のメンバーです。

主催 恵那市 ICT教育推進室 TEL:0573-26-0890

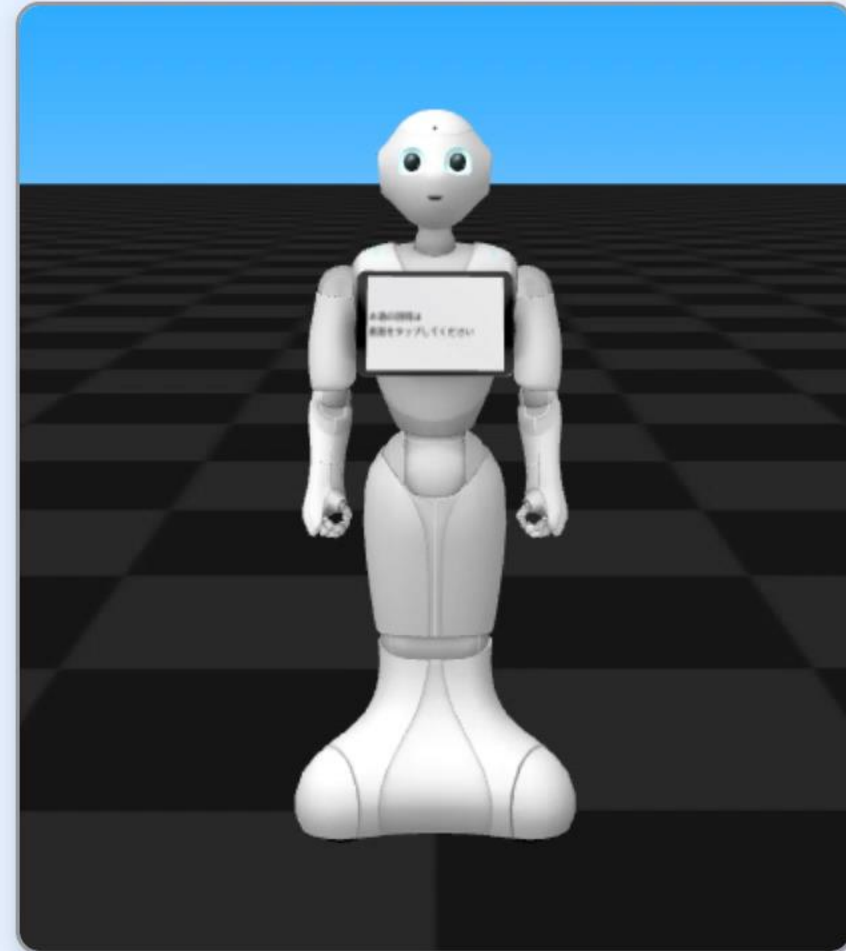


③今後について

- ・次年度の実施方法を早めに計画していく。（次年度以降の実施フィールドをどのように募集するかが最大の課題）
- ・他機関・他部署の連携がなければ実施が困難。どのような組織で実施していけば継続していけるかを検討していく。
- ・より多くの参加生徒を確保していくために、学校現場との連携の仕方を模索していく。

実際に作成されたプログラムをご覧ください。

お酒の説明は
画面をタップしてください



プログラミングによる社会課題解決の実施

参加者の感想（主催・企業側）

- ・岩村醸造 渡會社長
短期間で制作したとは思えない出来栄で、素晴らしかったです。**商売もプログラミングも実際に現場を知ることが大切**です。今回の経験をもとに、自身のさらなるステップアップにつなげてください。
- ・サステナ 樋田様
今回のSTEAM教室は、ただ単にプログラミングをするだけではなく、**実際に現場の苦悩を自分の目で見て、自身で組んだプログラミングの反応を伺えるというとても貴重な体験**ができたと思います。
- ・教育研究所 水野主事
今回のSTEAM教室を通じて、実際にある仕事場での課題を見つけ、その課題を解決をした経験は、**社会と自分をつなぐ経験**になったと思います。
課題解決に向けて、主体的に取り組む中学生の姿に、これまでの中学校で見てきた中学生とは違った**「力強さ」や「可能性」を感じました。**

参加者の感想（参加生徒）

1. 参加してみてよかったですか。
「参加してみてよかった」100%
2. 理由を教えてください。
 - ・「プログラマー」という仕事に漠然としたイメージしかなかったが、イメージをもつことができた。（将来の夢がプログラマー）
 - ・「プログラミング」は**初めての経験。難しいイメージがあったが、いろいろなアイデアが思い浮かび、それを形にするためにいろいろと試すことが楽しかったから。**
3. 感想を教えてください。
 - ・**日常のものからアイデアを受けて、それに応えようとする力と発想を転換する力がついたと思う。**行き詰っていた時、回転ずしのタッチパネルのことが頭に浮かび、その考えが使えるのではないかと考えた。

LINEGIGAワークブックによる情報モラル教育

①4月時点の状態と課題

- ①「GIGAワークブックえな」は作成済
- ②情報モラル教育について、恵那の標準パターンがなかった

②取り組みの経過

- えなの標準パターンを策定
 - ・若い教員も迷わずに対応できるように指導案を工夫
 - ・校長会、教員向けセミナーで全員に展開を実施

LINE GIGA 恵那

こんなつもりじゃなかったのに

1 AのトークとBのトークでは、どちらがトラブルが起こるリスクが高いでしょうか。

A 1年3組 (34)

16:55 既読 33 今日、たかしさんが教室の掃除してたね

16:55 たかしさんってまじめだよ

クラスでのグループトーク

B たかし

16:55 今日、たかしさんが教室の掃除してたね

16:55 たかしさんってまじめだよ

たかしさんとの個人トーク

2 〇で選んだ理由を書きましょう。

3 このあとどのようなトラブルが起きる可能性があるか考えてみましょう。

トークの続きは？

モデル指導案：こんなつもりじゃなかったのに

授業のねらい

- ・コミュニケーションにおける危険（リスク）を予想することの重要性に気づき、自分と他者との危険（リスク）の予想の「違い」に気づく。
- ・ネットの特性を踏まえ、危険（リスク）を回避しながら、自分の考えや気持ちを相手に伝える方法について考える。

授業の流れ (50分)

時間	学習活動	準備物等
5分	1. 導入	
	・トーク内容を読み上げながら、状況について確認する。	
	どちらがトラブルになるリスクが高いでしょうか。	
	・グループで発表し、クラスで共有する。	
	・今日の授業では、「『こんなつもりじゃなかったのに』とならないために『リスクを見極める力』を身に付けること」を伝える。	
20分	2. カードで学ぼう	○カード教材
	3~5名のグループとなり、カード教材を準備する。	
	このあと、どうなるでしょうか。	
	・それぞれのトークを15秒で「この先、グループの会話がどうなるか」を予想して、分譲する。	
	・その際、自分だけでなく、グループ内の他者がどのように感じるかも考える。	
20分	3. 判断の根拠を共有しよう	○カード教材
	・判断の根拠になった部分を赤で囲む。	
	・グループで判断した理由を発表し、気付いたことを記入する。	
	「こんなつもりじゃなかったのに」とならないためには、どうすればよいでしょうか。	
	・メッセージを送る時、見る時、どんなことに気を付けたらよいかを考える。	
5分	4. まとめ	
	・家庭でカード教材と一緒に体験してみるように伝える。	



LINEGIGAワークブックによる情報モラル教育

職員向けの取組

- ①情報管理担当者研修会（5月）
- ②ICT活用推進担当者研修会（7月）
- ③職員向け生成AI研修の実施（10月）
- ④学校における生成AI利活用基本方針策定（11月）
- ⑤教務主任研修会（11月）
- ⑥ICT支援員研修会（11月）
- ⑦ICT活用推進担当者研修会（12月予定）
- ⑧職員向けICT利活用研修（1月予定）
- ⑨管理職向け生成AI研修（2月予定）

学校における生成AI利活用 基本方針

～生成AIで業務を効率化～

第1.0版 令和7年11月10日

学校における生成AI利活用基本方針

1 「人間中心の原則」に徹する利活用

生成AIは使い方によって人間の能力を補助、拡張し、可能性を広げられる有用な道具になる。生成AIの出力はあくまでも「参考の一つである」「悪用」とは認めないことを認識するとともに、最終は人間が判断し、生成AIの出力結果を踏まえた成果物に自ら責任を持つ。

2 資質・能力の育成に徹する利活用

児童生徒の学びにおいては、学習指導要領に示す資質・能力の育成に資するが、教育活動の目的を達成する観点から効果的であることを判断した上で利活用する。生成AIを利活用することが目的であってはならない。

3 リスクや懸念に対策を講じた上での利活用

関係法令の遵守等による適正な利用、情報セキュリティの確保、個人情報やプライバシー、著作権の確保、公平性の確保、透明性の確保、関係者への説明責任等に十分配慮したうえで、利活用する。

4 発達段階や個々の状況に応じた利活用

適切に利活用するためには、主体性、思考力、真偽判別力、情報活用能力（情報モラルを含む）等が必要である。学びごとの意義そのものに対する深い理解も必要である。力の育ちや個に応じた利活用をする。小学校段階での利活用は慎重にする。

5 文部科学省のガイドライン、恵那市教育情報セキュリティポリシーに沿った利活用

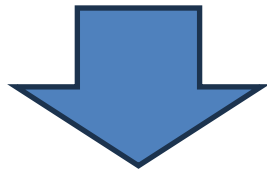
本基本方針を踏まえ、「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」（文部科学省令和6年12月26日Ver.2.0）に沿って利活用する。情報セキュリティに関することは、恵那市教育情報セキュリティポリシーと、各校の定める教育情報セキュリティ実施手順に従うものとする。

参考
（生成AIの普及と懸念）近年、急速に進化を遂げている生成AIはかつてないスピードで社会に普及しており、その利便性とリスクの存在から社会に様々な影響を及ぼしている。生成AIは、既存情報を大量に学習し、それらに基づき計算原理に従って有用性の高い出力をすることが可能であり、教育分野においても様々な利活用が考えられる。一方、学校現場での利活用に関しては、学びごとの意義そのものに対する根拠的な観点から、差別や偏見、著作権侵害等の倫理的・社会的な懸念、利活用に当たってのセキュリティ確保等の技術的な懸念、それらを踏まえた具体的な取組等の学務的な留意点まで、非常に幅広い観点で確認されている。
【初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン】（文部科学省 令和6年12月26日Ver.2.0）より抜粋

学校でのプログラミング支援

①4月時点の状態と課題

- ①令和6年度はPepperの活用回数が減少
- ②プログラミング学習としての活用が少ない実態
- ③市内中学校のCS学園内でプログラミング講座を計画
- ④小学校のクラブ活動で活用したいとの要望あり



②取り組みの経過

11月：スクールテンプレートによる「防災教育」の実施
(長島小学校)

11月：「英語の授業での活用」の実施 (恵那西中学校)



③活動目標の完了予定 (11月末時点の予想状況・計画)

- ・小学校クラブ活動の取材
- ・特徴的な活動の周知 (校長・教頭会、研究所だより等)
- ・次年度中学校での活用方法を検討

～ 交通分科会 ～

シェアサイクルの月平均利用回数/人の向上

①4月時点の状態と課題

- ・シェアサイクルの月平均利用回数/人は、2.0回/月の利用がある
- ・他市の実績と比べると利用が低い
- ・ステーション数と比較して車両台数が少ない

③取り組みの経過

○アンケート調査

- ・アプリのステーションのタップでアンケート起動
7/3~8/30 48件回答
恵那農業高校とアクロスプラザ周辺の要望
- ※アンケート手法の変更で回答数3.4倍に

○公用利用

- ・登録者数：497件
8月21件、9月38件、10月63件



○高校生利用公共交通利用促進チラシ作成配布

チラシの280円分クーポン掲載

②今期の活動結果（定量・定性）

- ・シェアサイクルの月平均利用回数/人
現状2.0回 → 目標値2.2回 → 2.4回 (20%増↑)
利用人数79人 → 104人 (31%増↑)
- ・ステーションの増 17か所 → 18か所
- ・車両の増 25台 → 35台

④工夫した点

アンケート手法のビフォーアフター

昨年：アンケート周知看板（QRコード付き）を
ステーション付近に設置
今年：アプリのステーションタップでアンケートを
ポップアップで表示

⑤今後について

- ・使いやすいステーションの追加
恵那農業高校付近
アクロスプラザ付近

高校生の定期券利用数の増

①4月時点の状態と課題

- ・令和7年3月15日からデジタル定期券の販売開始
- ・バスの車内や市及び交通コンシェルジュポータルサイトへの掲載
- ・利用して欲しい高校生に届いているか把握できない

③取り組みの効果

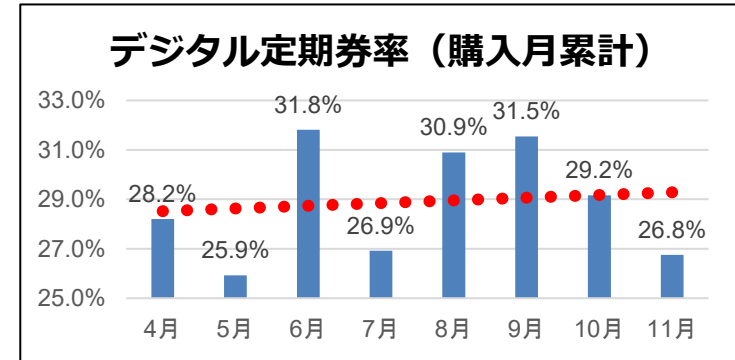
- 市民の利便性向上
 - ・利用者の家族は移動コスト0で購入可能に！
- 事業者の業務量削減
 - ・販売窓口の対応数を削減
- デジタル定期券等入金処理作業コスト削減（RPA）
 - ・新たに発生した職員業務を工数0で対応実施
- 利用促進チラシの作成配布
 - ・チラシから購入サイトへの誘導に向け、生成AIを活用した誘導サイトページの作成（作業時間：1時間15分程度）

②今期の活動結果

デジタル定期券率

目標値：20%

11月末：26.8%↑



④工夫した点

チラシ配布
(3千枚)

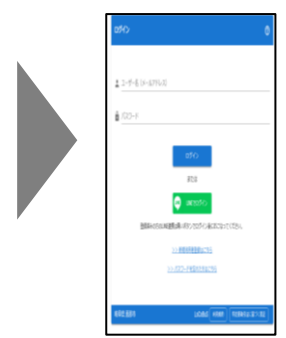


誘導ページ
43アクセス
(1.4%)

誘導ページ



購入ページ
43アクセス
(100%)



～ 防災分科会 ～

防災研修業務

4月時点の状態と課題

(申請者) 申請に手間がかかる。印刷→記入→提出
(防災研究会) 日程・内容調整に手間、時間がかかる。
(市担当) 講師との調整、依頼書発行等の工数が多い。

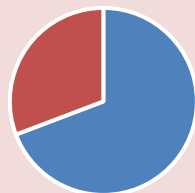
今期の活動結果 (定量・定性)

(申請者) Webフォームのみで申請完了
(防災研究会) 月1回の定例会でまとめて調整することで、都度連絡を取る必要がなくなった。
(市担当) 月1回の定例会において、調整業務圧縮。入力されたテーブルデータを活用し、書類作成の工数削減。

申込の オンライン化

・ 8月から周知運用
(オンライン・紙併用)

オンライン 18件 69%
紙 8件 31%



調整業務の 集約

・ 防災研修のスケジュール、内容調整を
月1回の定例会でまとめて行う

年間49回 (R6実績) × 15分 = 735分
→ 年間12回 × 20分 = 240分



地震体験車貸出業務

4月時点の状態と課題

(申請者) 申請に手間がかかる。様式作成→メール作成
(市担当) 使用許可書発行等の工数が多い。
電話での注意事項等の説明が多く、抜け漏れが生じる。
使用後確認の連絡が必要

今期の活動結果 (定量・定性)

(申請者) Webフォームのみで申請完了
(市担当) 入力されたテーブルデータを活用し、書類作成の工数削減
申請フォームを工夫し、注意事項伝達の自動化
使用後確認の連絡が不要

申込の オンライン化

- ・「恵那市防災センター条例施行規則」を改訂
- ・11月から周知運用
(オンラインに完全移行)
- ・入力されたテーブルデータを活用し、
許可書等の出力の手間が削減

使用確認の オンライン化

- ・11月から周知運用
地震体験車にQRコードを配置→使用後に回答
- 年間20回 (R6年実績) × 3分 = 60分
→ 0分

令和7年度地震体験車使用許可申請

入力フォーム

1

2

3

下記のフォームにご入力をお願いします。

Q1. 担当者

氏名

氏 必須

名 必須

0 / 64

0 / 64

電話番号

電話番号 必須

スマートスピーカー安否確認の機能追加（飯地町）

4月時点の状態と課題

- ①スマートスピーカーで回答できなかった場合の安否確認ができない。
- ②安否確認の回答が、本部でしか確認できない。

今期の活動結果（定量・定性）

- ①電話での安否確認の回答が可能に
- ②支援者にLINEで安否確認の回答を通知

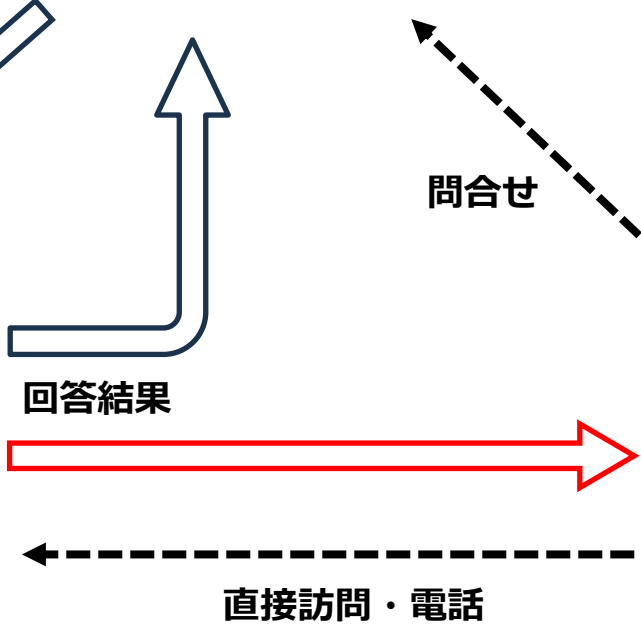
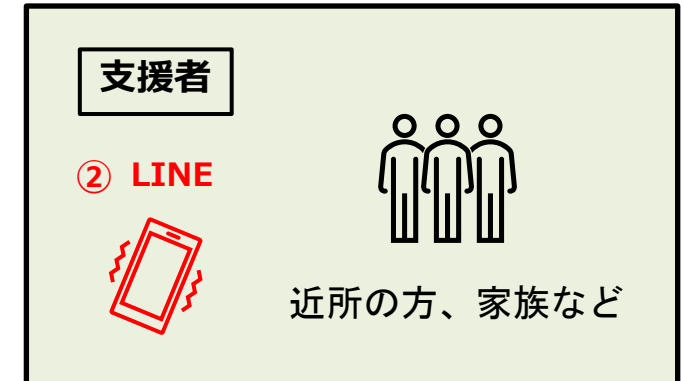
- ①電話再通知機能
違う部屋や、外出先でも回答可能
登録率 50世帯/178世帯（28%）



「無事ですか？」
「避難しますか？」



- ②支援者LINE通知機能
直接訪問・本部への問合せが不要
登録率 30世帯/52世帯（57%）



～ 公共分科会 ～

リモートワーク環境の再整備



在宅勤務（都市整備課）





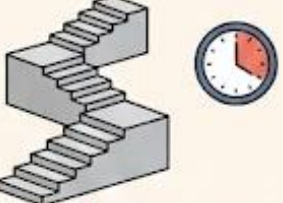
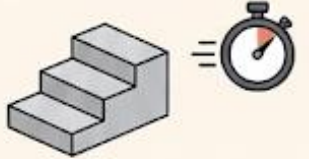
専用システムも使用可能、技術職員も在宅勤務が可能に



実地検査（消防本部 予防課）

大量の書類を持ち運びしていたが、ノートPC1台に

リモートワーク環境の再整備

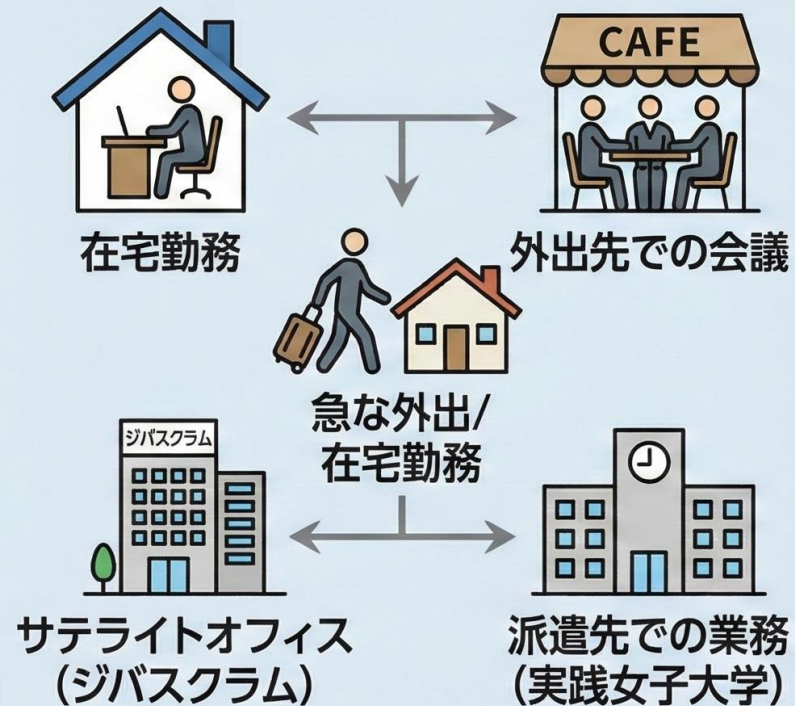
4月時点の状態と課題 (Before)	今期の活動結果 (After)
<p>① デバイス</p>  <p>10inch x40 15inch x10 計50台 (PC) 予約貸出方式</p>	<p>① デバイス</p>  <p>30台 (Wi-Fi) 予約貸出方式</p>
<p>② 接続方式</p>  <p>ノートPCごとに異なる接続方式 (バラバラ)</p>	<p>② 接続方式</p>  <p>接続方式をすべて統一 (シンプル)</p>
<p>③ 接続ステップ数</p>  <p>7ステップ / 9ステップ</p>	<p>③ 接続ステップ数</p>  <p>3ステップ</p>

4月時点の状態と課題 (Before)	今期の活動結果 (After)
<p>④ 貸出時の手間</p>  <p>毎回設定作業あり (手間大)</p>	<p>④ 貸出時の手間</p>  <p>設定作業不要 (手間なし)</p>
<p>⑤ 環境/制限</p>  <p>テレワーク用環境 機能制限が多い</p>	<p>⑤ 環境/制限</p>  <p>普段使用している環境 機能制限なし</p>
<p>⑥ 利用状況</p>  <p>利用する職員が固定</p>	<p>⑥ 利用状況</p>  <p>あらゆる職員・ケースで利用 (拡大)</p>

リモートワーク環境の再整備

再整備後の取組効果

多様な働き方の実現



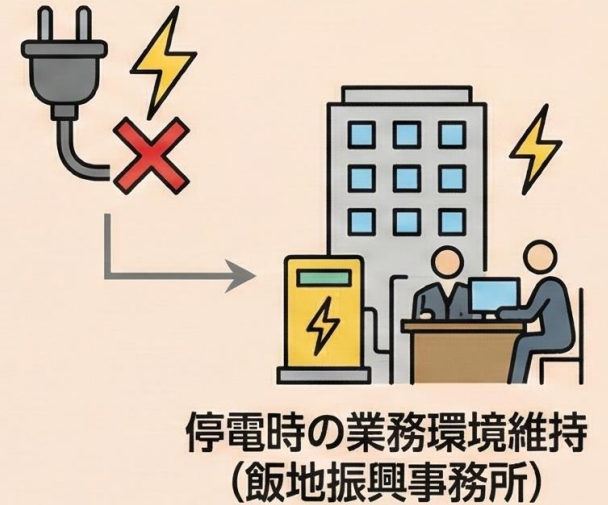
いつでもどこでも柔軟に

現場作業の効率化 (ペーパーレス)



現場で完結・ペーパーレス化

災害及び緊急時の業務維持



事業継続・BCP対応

デジタル市役所の検討

4月時点の状態と課題

- ①市民意識調査 1位：オンライン化 2位：窓口デジタル化
- ②導入しているオンライン申請プラットフォームの機能不足
- ③窓口での手続きは紙のみ
- ④バックヤードのICT化が進み、デジタル化できる環境が整ってきた

今期の活動結果（定量・定性）

- ①令和8年度当初予算要求中（手続きオンライン化）
- ②オンライン化検討中の手続き件数：約5,000件/年（11/15時点）
- ③オフィス整備と連携した「書かない窓口」を計画（令和9年度）

「デジタル市役所」の取り組み

取組スケジュール

～令和7年度：
環境整備（バックヤード）



公文書データ原本化・
決載デジタル完結

令和8年度：
オンライン市役所開始



手続きオンライン化
(申請から交付まで)

令和9年度：
書かない窓口開始



デジタルが苦手方な
へのサポート充実

実施後の市民の状況

働く世代・子育て世代：
いつでもどこでも申請可能



オンラインで完結。市役所に来る
必要がなく、楽に進められる。

高齢者：
安心して手続きできる窓口



「書かない窓口」で簡単、来庁者が減り、
職員がゆっくり対応してくれる。

実施後の職員の状況



オンライン完結で単純作業が減少。困っている市民対応や企画業務
に時間を充てられる。

～ 人事交流分科会 ～

DX関連研修の満足度向上

① 4月時点の状態と課題

状態 DX人材育成の基盤整備が完了/全庁的なDX推進風土の醸成

課題 職員ニーズや変化の激しいDX情勢に合わせた研修選定

② 取り組みの工夫

① 即効性のある研修実施



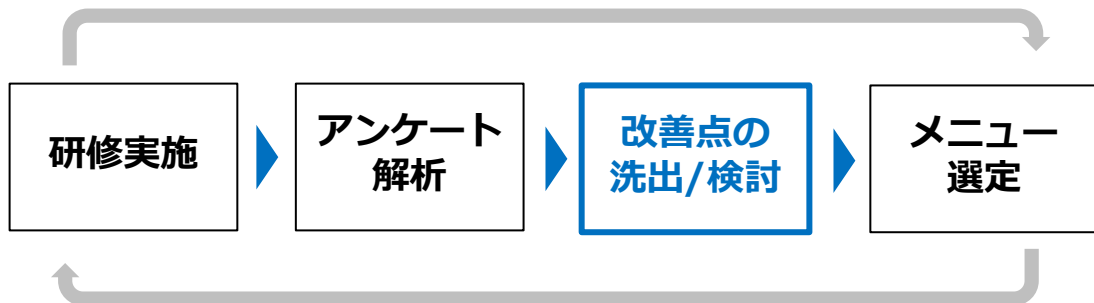
「DXが必要なのは理解したが、業務への活かし方が分からない」
「明日から活用できるような情報を知りたい」
「研修時間が長く負担感がある」

※研修レポートより

理論から実践へ

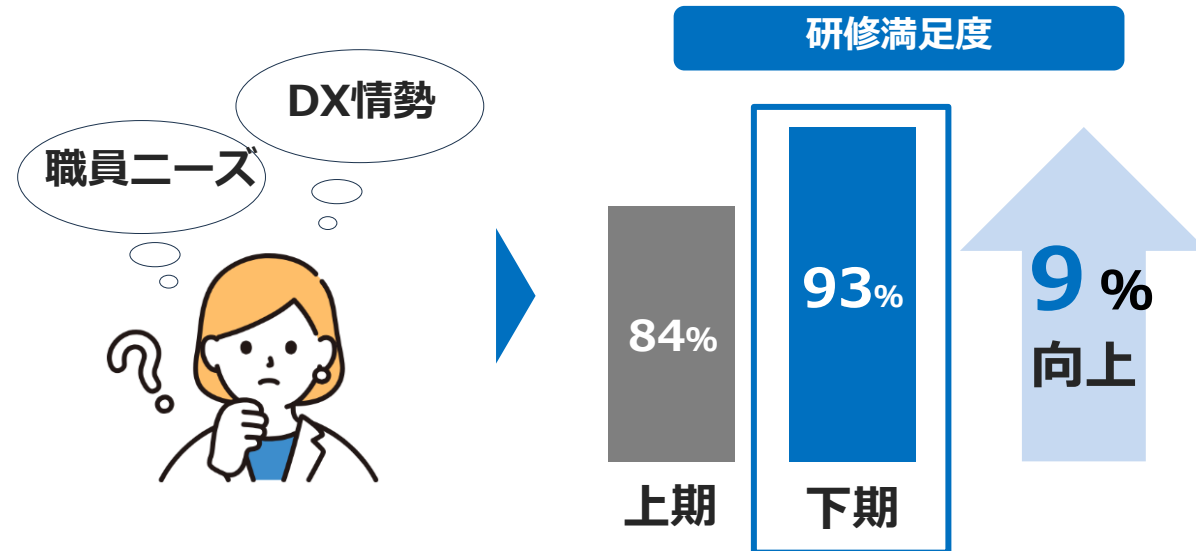
- ・データ分析(Excel)研修
- ・生成AI活用研修
- ・実践型政策立案研修

② 職員ニーズの即時反映



③ 今期の活動結果

「DX人材の育成→業務効率化」という目的に対し常に改善を実施



ドローン研修



池田ゼミ「実現力講座」



DX関連研修

延べ**394**名
受講

※令和7年度実績

DX関連研修の満足度向上（生成AI関係）

① 4月時点の状態と課題

状態 実施要望が多く、昨年度実施した研修は満足度が高かった。

課題 庁内ガイドラインがなく、業務活用の環境が整っていない。

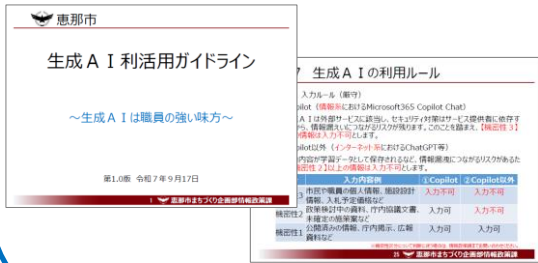
② 取り組みの経過

目的 職員のCopilot利用による業務改善/効率化

環境整備

ガイドライン策定 (情報政策課)

- ・ 利用ルールの明確化
- ・ 効果的な活用事例の共有



庁内展開

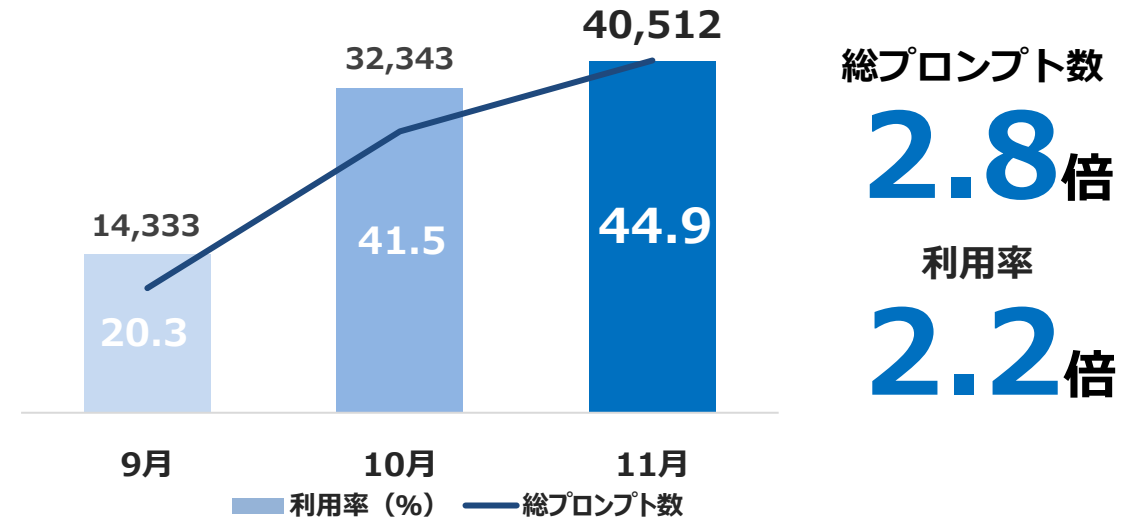
研修実施

- ・ 全職員向け動画研修
- ・ Copilot活用研修

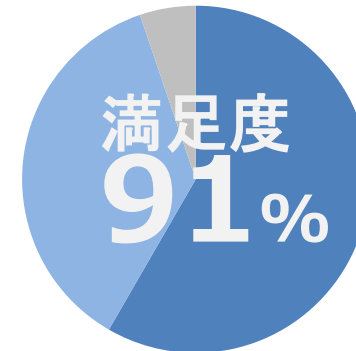


③ 今期の活動結果

Copilotの利用状況



利用者アンケート結果



9割以上から前向きな回答

「業務の効率化を実感」

95%

「今後も活用したい」

99%